

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	有限会社 癒 森 会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護事業所 やしろの郷
所在地	(〒918-8055) 福井市若杉町25-18-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

在宅生活を望む利用者と家族を支えるために、それを可能にするサービスを介護度にとらわれずあらゆる側面から検討し、家族・医療・地域と連携し、共に歩んで行くことに努めています。また包括的なサービスを生かし、その時々ニーズに柔軟に対応できる事が強みと自負しています。

利用者の個性に寄り添って、生活全般に目を行き届けられるよう常に多職種で対応し、都度にスタッフと家族の情報交換を怠らないように努め、チームで細かくケアの振り返りを行うことで、よりよい在宅生活が実現できるよう日々努めています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 2 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(6) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	---------	---------

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	・事業所の理念やサービス内容について職員に再度周知徹底を行いたい。 ・	・利用者さんや家族さんとの関わりの中で「利用者さん本位」を念頭に置いて話し合い	・利用者さんの気持ちに向き合い支援、ケアができたことが多かった。 ・介護タクシー等看護小規模	・引き続き頑張ってほしい ・

			やケアの計画を立てることができた。 業務ミーティング時に事業所の勉強を行った。	多機能でできないサービスを利用する機会があり、職員の知識向上になった。	
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	緊急時の対応はできていた。 認知症独居の方に対して介護サービス以外の社会的資源を活用したい。	・介護サービス以外の社会的資源はなかなか難しかったが、近くのコンビニに協力を仰ぐなど、社会的資源を意識できた。	・一人歩きをする利用者さんのよく行くコンビニに不穏時に電話をもらうなど協力体制を構築することができた。	・引き続き頑張してほしい ・
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・医療機関はじめ、包括支援センター、他施設と利用者さんの連携を図る	・往診を積極的に活用した。	・看護職員数は適正となったが、介護職員が退職し少なくなった。同一建物のグループホームの職員が兼務で業務にあたっており、介護職業務をカバーしている。	・引き続き頑張してほしい
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	・医療ニーズの方、認知症の方が地域で住み続けるように医療機関をはじめ、社会資源を生かして支援をしていく。 ・急な変更も臨機応変に対応できるようにする。 ・地域社会のイベント等に参加しなじみの顔を築くようにする	認知症独居の方に後見人の手続きを行った。 地域自治会の総会に参加し、事業所の案内等を行った。 たん吸引の利用者等医療依存度の高い利用者の受け入れを行った	・地域包括支援センターから困難事例の利用者を受け入れ、ゴミ捨て、居室掃除等地域で暮らしていける支援をした。	・引き続き頑張してほしい
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		認知症の症状悪化により介護度改善が難しい利用者が見ら	利用者の状態に合わせて訪問頻度を増やす等を行った。家	・昨年より自宅でのケアや地域を巻き込む支援が必要な利	・引き続き頑張してほしい

	れるなど、ますます医療機関との連携が必要となり、訪問看護、訪問介護で得られた利用者情報を的確に医師に伝え対応について指示を受けるなど、都度、在宅生活を継続するために必要なサービスの見直しを行い、適切なサービスを提供する。	族のレスパイトケアや利用者の自立支援が行えた。	用者が多かったが、試行錯誤しながら対応できた。また困難な利用者さんの受け入れを行い、事業所の支援力が向上したと評価したい。	
--	--	-------------------------	---	--

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目		改善計画（案）	運営推進会議における意見等	
Ⅰ．事業運営の評価 （評価項目 1～10）		・職員さんが働きやすい環境の整備を行う。（育休の取得促進。年休取得の促進。取りやすい休日） ・職員の人材育成、業務の洗い出しを行い、役割を明確にする。	・職員さんが働きやすい環境整備をお願いします。	
Ⅱ．サービス提供等の評価	1．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 （評価項目 11～27）	各利用者さんに対して、家族の関わり、家族のレスパイトケア等に注視し、家族へのアセスメント、情報共有を密にする。	・ そのようにお願いしたい。	
	2．多機関・多職種との連携 （評価項目 28～31）	・短期利用の受け入れを行っている為、退院時の在宅までの支援を積極的に行う。 - 他施設との研修や情報共有の場を設ける。	・ 他施設との連携を密にお願いしたい。	

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	・地域の自治体へ積極的に声掛けを行い、行事等の参加を増やし顔なじみの関係を築く - 地域で住み続けるために自宅や施設での支援の幅を広げていく	・ 地域と一緒に生きていきたい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		・職員のスキルアップを目指し、幅広い利用者さんの受け入れを行っていききたい。 ・利用者家族の支援を視野に入れたケアを考えていききたい。	・ いろいろと検討してやってほしい。 ・

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足				
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い						
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]											
(1) 理念等の明確化											
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践											
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		3	3			✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」				
		[具体的な状況・取組内容]									
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		3	3			✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」				
		[具体的な状況・取組内容]									
(2) 人材の育成											
① 専門技術の向上のための取組											
3	○ 職員との話し合いなどを通		1	5		取組みをお願いします。	✓ 「育成計画の作成」の状況につい				

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およそ でき て い る	あまり でき て い ない	全く でき て い ない		
	じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	[具体的な状況・取組内容]					て、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」 ✓
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		4	2			✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		4	1			✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要		4	2			✓ 「得られた要望・助言等のサービ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	[具体的な状況・取組内容]					スへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		4	2			✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます ✓
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	1	3	2			✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者		1	5		対策をお願いします。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	[具体的な状況・取組内容]					の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		2	4			✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセ		3	1	2	OJT/OFFJT 等通してスキルアップしてください	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	スメントが行われている						規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります ✓
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		3	2	1		✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます ✓
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		3	3			✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます ✓
14	○ 利用者の有する能力を最大	1	1	4		自己評価があがるよう努め	✓ 「利用者の有する能力を活かし

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	限に活かした、「心身の機能 の維持回復」「生活機能の維 持又は向上」を目指すことを 重視した計画が作成されて いる	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 入所時に把握した内容に対して個に合わ せて計画を立て利用者の応力を最大限に 活かせるように努めている。				てください	た、心身機能の維持回復を重視し た計画の作成」について、充足度 を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有 する能力に応じ地域において自立 した日常生活を営む」ために、必 要な視点であるといえます ✓
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の 予測と、リスク管理を踏まえ た計画が作成されている		1	5		対策を行ってください。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管 理」の2つの視点から、充足度を 評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される 看護小規模多機能型居宅介護にお いては、特に看護職による予後予 測などを踏まえて計画を作成する ことが重要です ✓
② 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続		2	4			✓ 「早期の把握」と「計画への適宜

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	的なアセスメントにより、利用 者等の状況変化を早期に 把握し、計画への適宜反映が 行われている	<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u>				自己評価が分かるように努 めてください。	反映」の2つの視点から、充足度 を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に 偏らないよう、適時適切に利 用者宅を訪問することで、家 族等を含めた居宅での生活 状況の変化を継続的に把握 している		3	3	<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u>		✓ 「訪問による、家族等を含めた居 宅での生活状況の変化の継続的な 把握」という視点から、充足度を 評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等 を含めた居宅での生活状況を把握 するためにも重要です ✓
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標 の達成状況等について、主治 医など、事業所内外を含む関 係多職種と情報が共有され ている	1	3	2	<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u>		✓ 「利用者等の状況変化や目標の達 成状況等の事業所内外を含む関係 多職種との情報共有」について、 充足度を評価します ✓

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		4	2		はつきできているとよい	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です ✓
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>人手がないときは特に柔軟な対応をしている</u> <u>看護師しか行えない業務は行っているが、ケアなど役割分担をしていくなど改善が必要。</u>					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		4	1			✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します ✓
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>月 1 回のミーティングや日々の申し送り時も話ができています。</u> <u>適宜全職員はできていない</u> <u>パソコン、タブレットなどで共有、申し送りや職員同士のコミュニケーションはできている。</u>					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、		3	3			✓ 「看護職の専門性を活かした、介

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 個に合わせた内容や意見交換などが行え ている。					護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割の 1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説 明し、利用者等の理解を得て いる		3	3			✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します ✓
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u>					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅 での療養生活の継続に向け て留意すべき点等について、 分かりやすく説明し、利用者 等の理解を得ている		2	3			✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u>					
24	○ 利用者等が行う医療処置や 医療機器の取り扱い方法、家 族等が行うケアの提供方法 等について、分かりやすく説		3	2			✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します ✓
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	明し、利用者等の理解を得ている						
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		3	3			✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		3	2	1		✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		1	3	1		✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] 予後、経過判断がむずかしい					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報		5	1			✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 訪問看護指示書に対して計画立案し実施報告を行えている。					行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます ✓
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる		3	2			✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です ✓
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		3	2	1		✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します ✓

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		2	3			✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です ✓
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		4	1			✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
33	○ サービスの概要や地域にお		1	4	1		✓ 「積極的な啓発活動」について、

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	いて果たす役割等について、 正しい理解を広めるため、地 域住民向けの積極的な啓発 活動が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地 域説明会の実施」などの取組が考 えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的と した活動等は除きます ✓
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介 護事業所の登録者以外を対 象とした訪問看護を積極的 に実施している			3	2		✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併 せて受けている事業所」のみが対 象です。該当しない場合は、実施 状況欄は無記入で、[具体的な状 況・取組内容]欄に「指定なし」と記 入してください ✓
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要 介護者を受け入れることが できる体制が整っており、積 極的に受け入れている	1	3	1	1		✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							の視点から、充足度を評価します ✓
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている			<u>1</u>	<u>5</u>		✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します ✓
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>「人工呼吸器」は整備されていない。</u>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている	<u>1</u>		<u>3</u>	<u>1</u>		✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します ✓
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>看取りの指針、体制は整えているが、まだ 対象者がいない。</u> <u>実際に積極的に受け入れている</u>					
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38			2	2	1		✓ 「内容等の理解」について、その

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 情報収集は個人に任せている為、業務ミーティング時に伝達を行いたい。					充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1	3		2		✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」 ✓
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に		1	3	2		✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
	応じて課題提起や改善策の 提案等が行われている						要となる保険外サービスやイン フォーマルサービスの開発・活用等、 利用者等のみでなく地域における 課題や改善策を関係者に対して提 案していくなどの役割も期待され ます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」 ✓
41	○ 家族等や近隣住民などに対 し、その介護力の引き出しや 向上のための具体的な取組 等が行われている		<u>1</u>	<u>2</u>	<u>2</u>		✓ 「家族等や近隣住民に対する、介 護力の引き出しや向上のための取 組」について、その充足度を評価 します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣 住民の関わりを促しながら、関係 者全員の介護力を最大限に高める ことにより、在宅での療養生活を 支えていくための環境を整えてい くなどの役割も期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u>		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>利用者や家族との関係はおおむね良好であり、必要なサービスが提供されている</u>		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	者およびその家族等において、在宅での看取りに対する 安心感が得られている	れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない [具体的な状況・取組内容] 入所時の話し合いやその後適宜コミュニケーションをとっていく中で、看取りに対しての情報共有がされていると考えている。		提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」